

「信号機のない横断歩道」での一時停止率について

「信号機のない横断歩道」の車の停止率は 8.6% !

各都道府県 2 か所ずつ全国 94 か所の信号機が設置されていない横断歩道を通過する車両を対象 (11,019 台) に行ったところ、歩行者が渡ろうとした場面で一時停止した車はわずか 948 台 (8.6%) という結果に。

出典：JAF（一般社団法人日本自動車連盟）による「信号機のない横断歩道」における歩行者優先についての実態調査（平成 30 年 10 月 25 日公表）

全国平均	8.6%
長野県	58.6%
静岡県	39.1%
石川県	26.9%
島根県	26.5%
鳥取県	25.6%
愛知県	22.6%
福岡県	18.4%
神奈川県	14.4%
新潟県	13.8%
千葉県	11.9%
奈良県	11.8%
兵庫県	11.1%
岡山県	10.8%
長崎県	10.0%

車の停止率は長野県が突出して高い！

58.6%

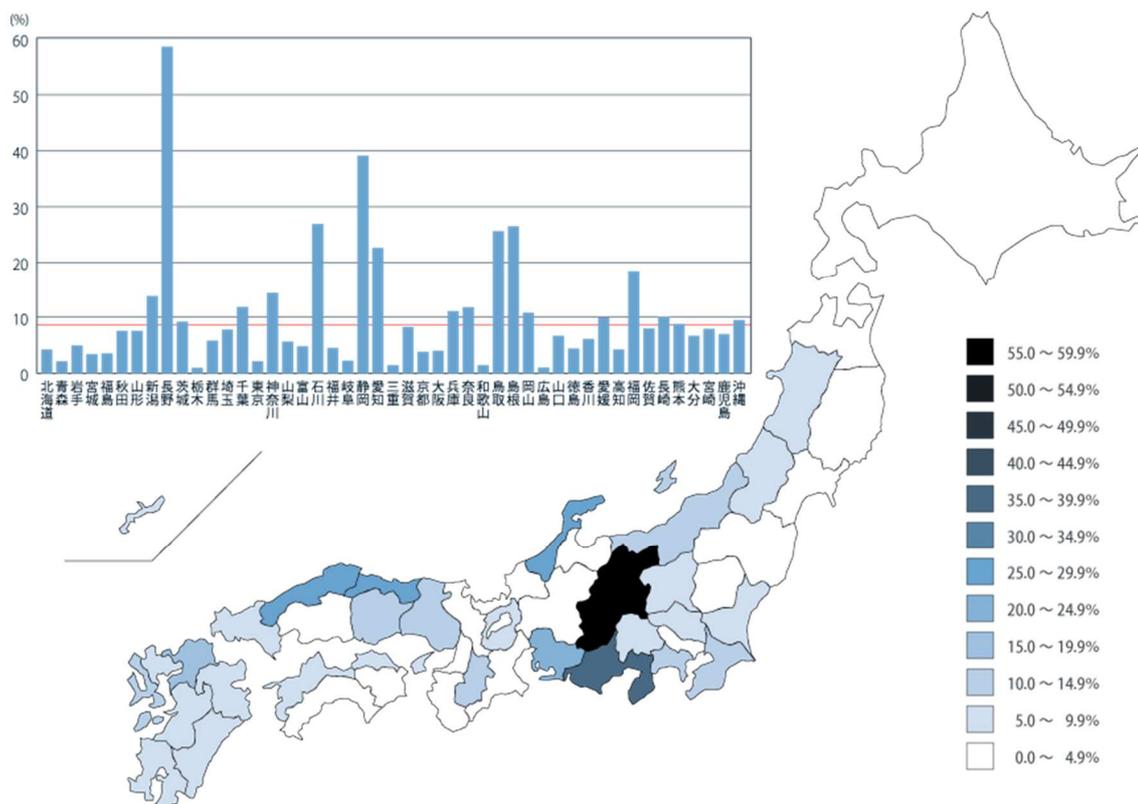
(平成 28 年 48.3%、平成 29 年 64.2%
過去においても全国 1 位)

理由は??

⇒JAF も「理由までは・・・」

調査結果が 2 桁だった都道府県

2018 年 信号機のない横断歩道における車の一時停止率（全国）



長野 3年連続日本一

信号機のない横断歩道 車の一時停止率

JAF調べ

信号機のない横断歩道で歩行者が渡ろうとした際に一時停止する車の割合を、日本自動車連盟（JAF）が調べた。長野は58.6%で3年連続の全国トップだった。運転マナーの悪さを指摘されることもある信州のドライバーだが、全国平均を大幅に上回り、「日本一の恩恵や運転」を示す結果となった。

6割近く停止 2位巨額

調査は8月中旬から約1カ所ずつの片側1車線の横断歩道で実施。JAFの職員月間、都道府県ごとに2

順位	都道府県	一時停止率
1	長野県	58.6%
2	静岡県	39.1%
3	石川県	26.9%
4	鳥根県	26.5%
5	鳥取県	25.6%
	↓	
42	東京都	2.1%
42	青森県	2.1%
44	三重県	1.4%
44	和歌山県	1.4%
46	広島県	1.0%
47	栃木県	0.9%

※JAFの2018年調査から

員が渡ろうとした際の車の対応を集計した。1カ所50回ずつ行い、歩行者の立ち位置や横断のタイミングは統一した。その結果、全国で一時停止した車は、1万1019台のうち948台（8.6%）だけだった。9割以上の車が止まっておらず、全国ワーストは栃木の0.9%。そんななか、6割近くが止まった長野は、2位の静岡以下を大きく引き離れた。2016年は48.3%（全国平均7.6%）、17年も64.2%（同8.5%）で、いずれも断トツの全国トップだった。JAFの担当者は「長野が高い要因はわからない。

結果が突出していたため、16年には長野市内6カ所で追加調査を行ったが、そこでも全国最高だった。長野は、「強引な右折」や「ウィンカーを出さないう」といった運転マナーの悪さを長年、指摘されてきた。こうした運転を指摘する「松本走り」という言葉もあるほどだ。

理由として「自分が止まっても対向車が停止せず危ない」「自分が通り過ぎれば歩行者は渡れる」という回答が多かったという。長野もトップとはいえず、半数ほどが「横断歩道は歩行者優先」というルールを守っていないかった。県内では昨年、正しく横断歩道を渡っていた291人が事故で死んだりケガをしたりした。一方、飛び出しなどで歩行者は渡れなかった死傷者も280人いた。県警は「ドライバーも歩行者もお互いに安全に努めるよう、モラル向上を引き続き図ってほしい」としている。（津田公平）

県警 22〜28日に取り締まり強化

歩行者が渡ろうとしていたら…

横断歩道停車率 長野県全国1位

でも事故減らず

県警は22〜28日、横断歩道を歩行者が安全に渡れるよう、取り締まりを強める。日本自動車連盟（JAF）が、信号機のない横断歩道で歩行者が渡ろうとしている際、一時停止する車の割合を調べたところ、長野県が都道府県別で最も高かった。しかし、信号機のない横断歩道での事故は近年減っており、交通ルール徹底を図る。

JAFの調査は8〜9月、片側1車線で交通量や制限速



度、道路幅などが似た信号機のない横断歩道2カ所ずつで実施。JAF職員が平日午前10時〜午後4時、横断を試みて調べた。車が一時停止した

割合は長野県が58.6%。静岡県が39.1%、石川県が26.9%で続き、全国平均は8.6%だった。長野県は、数字は非公表だが16、17年も全国1位だったという。

一方、長野県警によると、県内の信号機のない横断歩道での歩行者事故は2013年以降、年90〜100件前後で高止まりし、死者も同2〜6人出ているという。今年10月末時点で53件と件数はやや抑制傾向だが、死者は既にこの結果が良いが、悲惨な事故は今もある。法律のルールを守ることで事故防止に欠かせない」としている。

用車にはねられて死亡した。渡ろうとしている人がいるのに、車が一時停止しない「歩行者妨害」の摘発も、県内では2015年の15266件から増加傾向。今年9月末時点で2327件（前年同期比53.9%増）だ。

取り締まり強化は全国一斉の広報啓発強化期間に合わせて行う。歩行者妨害を取り締まり、街頭指導もする。県警交通企画課は「マナーが高い」との結果が良いが、悲惨な事故は今もある。法律のルールを守ることで事故防止に欠かせない」としている。

信濃毎日新聞 11月22日朝刊

朝日新聞（長野県版） 11月14日朝刊

まだまだルールを守らない人も！

（信号機のない横断歩道を渡ろうとしているのに、車が一時停止しない「歩行者妨害」検挙数：長野県内今年9月末現在2,327件）

2月には佐久市内で下校時に横断歩道を渡っていた児童が飲酒運転の車にはねられ死亡する事故も。

第三次佐久市交通安全計画の基本理念（抜粋）

死傷者の一層の減少、ひいては事故そのものの減少に向けた取組を図るため、交通安全対策をより一層充実させるとともに、スロードライブな街をつくり、交通社会に参加するすべての市民が、交通安全に留意すること



佐久市の目指すスロードライブな街づくりとは

住宅地の生活道路を走る車のスピードを今より半分に落とすことで、子どもやお年寄りも使う生活道路においても、相当なアクシデントも回避でき、交通事故を無くすことにつながるので、車のスピードを落として走りましょうと呼びかけるものです。市民一人ひとりがゆとりを持った運転を心掛けることにより、誰もが“安心だ”、“交通事故が無くなった”と感ずることのできる、未来の佐久市の姿を目指すものであります。